

## No.9 足の速いお巡りさん

韋駄天の異名を持ち、日頃からそれを自慢にしている俊足の刑事が、往来をいま全速力で走っている。それを見つけた同僚の刑事が、やっとの思いで伴走しながら声をかけた。

「君、きみ！ 何があったのだね、そんなに全速力で走って？」

「見りゃ分かるだろう！ 事件発生だよ！ 今、ドロボーが逃げているのでそいつを捕まえようと追いかけているところだよ。」

「なるほど。だが、君の足の速いことは天下一なのだから、ドロボーにはとっくに追いついていなくちゃならないはずなんだがね??」

「当然だよ！ そのドロボーは、俺がもうとっくに追い越したから、奴は後から走ってくるだろうよ」

「??？」

